

土砂防だけよりの



雲見海岸からの富士山（松崎町）

年頭の御挨拶	2
2019年しずおかの砂防10大ニュース	
令和2年度 政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
市町長等砂防関係事業県外視察	5
東海地区砂防協会支部長・砂防課長 合同会議	6
市町等砂防担当職員現場研修	
令和元年土砂災害の発生状況	7
台風19号による土砂災害とソフト対策の効果	8
土砂災害防止講習会の開催	9
治山・砂防事業推進議員連盟の県外視察	
インフォメーション	10
お知らせ	12



令和2年度 政府予算案閣議決定



全国治水砂防促進大会
及び支部要望活動

市町長等砂防関係事業県外視察
市町等砂防担当職員研修



令和元年 土砂災害の発生状況

全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 原田 英之

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様をはじめ関係者の皆様におかれましては、日頃から当支部の活動に対し、多大なる御支援と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国で約2,000件と年平均の1.4倍にもものぼる土砂災害が発生いたしました。特に、狩野川台風級として、本県に上陸した台風19号では、中部地方から東北地方に至る広範囲で非常に激しい雨が降り続き、宮城県や福島県を中心に1都19県で土石流や土砂・洪水氾濫など約950件の災害がもたらされました。これは、1つの台風による土砂災害の発生件数としては、過去最大とのことでした。

本県におきましても、昨年は台風19号を中心に、過去10年で2番目に多い87件の土砂災害が発生し、全壊3戸と一部損壊3戸の住宅被害がありました。急傾斜の擁壁等が崩壊した土砂をくい止め人家等への被害を防いだ事例や、砂防堰堤裏の除石が効果的であった事例もあったと伺っており、これまでに整備していただいた土砂災害防止施設など、現在進められている「3か年の緊急対策」等の効果が発揮されたものと考えております。また、昨年も幸い人的被害はなく、防災訓練を実施していた要配慮者利用施設で、災害の発生前に避難が完了して難を逃れた事例等が報告されており、日頃からの備えの重要性が改めて示されました。

土砂災害を防止するためには、国・県により土砂災害防止施設の整備を更に推進していただくとともに、住民の日頃からの防災意識の向上と併せ、豪雨等により危険性が高まった際の実効性のある避難体制の構築が必要です。本年3月には、県が土砂災害警戒区域の指定を完了する見込みでありますことから、今後は、市町としても住民や要配慮者等の参加による実践的な避難訓練の実施や防災情報の適時適切で確実な伝達方法の確立について、一層充実・強化を図っていくことが重要です。

今年も「土砂災害による死者数ゼロ」を目指し、引き続き県と連携し、地域の安全・安心を確保できるよう砂防関係事業の普及・発展に努めてまいります。会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年も平穏な年であるよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2019年しずおかの砂防 10 大ニュース

台風19号により土砂災害44件、全壊家屋3戸の被害

10月の台風19号により県内初の大雨特別警報発表、土砂災害発生件数は44件、全壊家屋3戸の被害となりましたが、早めの避難により人的被害はありませんでした。



「土砂災害防止 街頭キャンペーン」を初めて実施

6月15日(土)の「みんなで防ごう土砂災害～砂防フェスティバル2019～」が荒天のため中止となったため、6月21日(金)に静岡駅改札口コンコースで「土砂災害防止 街頭キャンペーン」を初めて実施しました。



台風15号により、伊豆半島を中心に砂防施設が被災

9月の台風15号により白田川(東伊豆町)をはじめとした砂防施設が被災、計12件、約5億円の災害復旧を急ぎます。

令和元年の土砂災害件数は87件で近年2番目の多さ

令和元年の土砂災害は87件と過去10年で2番目の多さ(土石流が6件、地すべり2件、がけ崩れが79件)となりましたが、平成24年から人的被害ゼロを継続中です。

市町長等砂防関係事業県外視察を北海道で実施。

8月28日(水)～30日(金)に、静岡県支部の市町長等砂防関係事業県外視察を北海道(厚真町・利尻島)で実施し、市町長17名が参加されました。宮坂厚真町長との意見交換会や利尻島の火山砂防事業等の視察を行いました。





令和2年度 政府予算案閣議決定

令和元年12月20日(金)、令和2年度政府予算案が閣議決定されました。水管理・国土保全局関係予算のうち砂防関係の予算額は、「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」を集中的に進めるよう、国費ベースで対前年度比1.04の約6兆1,624億円となっています。

予算のポイントの内、砂防関係事業に関するものを示します。

(単位:億円)

事項	令和2年度(A)	令和元年度(B)	対前年度倍率(A/B)
水管理・国土保全局関係予算	10,935	10,569	1.03
治水事業等関係費	10,638	10,413	1.02
河川関係	8,836	8,669	1.02
砂防関係	1,624	1,564	1.04
海岸関係	178	180	0.99
下水道事業関係費	297	156	1.90
社会資本総合整備	18,015	21,887	0.82
うち防災・安全交付金	10,388	13,173	0.79
その他(道路・港湾等)	38,413	36,153	1.06
国土交通省関係予算国費 合計	67,363	68,609 (59,216)	0.98 (1.14)

1. 沖縄振興予算の国土交通省関係分を含む。
2. 本表のほか、以下のものがある。
(1) 受託者の負担に基づいて行う附帯・受託工事費 830億円
(2) 復旧・復興事業(東日本大震災復興特別会計) 3,662億円
3. 計数は、整理の結果異動することがある。

◀()書きは、「臨時・特別の措置」を含めない場合の計数

砂防関係事業における主要項目

令和元年の台風19号や平成30年7月の豪雨など、気候変動に伴い頻発・激甚化する土砂災害等に対し、人命を守るとともに壊滅的な社会経済的被害を回避し、将来にわたり安全で活力ある地域をつくるため、以下の項目を重点的に推進する。

- ・近年の災害を踏まえた土砂災害防止施設の重点的整備の推進
- ・土砂・洪水氾濫対策としての遊砂地等の整備の推進
- ・流木等を確実に捕捉する砂防堰堤等の整備の推進
- ・インフラ・ライフライン、避難所等を保全する土砂災害対策の推進
- ・要配慮者利用施設に関する土砂災害対策の推進
- ・火山活動活発化時の緊急的な対策や危険区域の想定による減災対策等の推進

砂防関係事業の新規制度等

個別補助事業の拡充

台風19号等の災害を踏まえ、地方公共団体が実施する事業について、計画的・集中的な整備により効果の早期発現を図るための個別補助事業を拡充する。(例:大規模な砂防関係事業、防災インフラの大規模な更新・改良等)

災害関連緊急事業による砂防堰堤新設等と一体的な捕捉空間の確保

砂防災害関連緊急事業等において、砂防堰堤の新設もしくは嵩上げと一体的な計画に基づき、既設砂防堰堤背面を掘削し、土砂・流木を捕捉するために必要な空間を確保する

土石流等による二次災害防止に向けた災害関連緊急事業の運用改善

土石流等が発生した溪流における二次災害防止について、より早期に安全を確保するため、災害関連緊急事業を迅速に工事着手できるよう、本申請に先立って部分的な申請を認める運用を導入する。

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を推進

国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、直轄・県の砂防関係事業予算が大幅に増額となりました。

東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議を開催

10月16日(水)に、東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議を浜松市で開催。「上田町特定利用斜面保全事業」の現場視察とともに、「避難行動のあり方」など意見交換を行いました。



静岡県支部第74回通常総会を開催

5月22日(水)に、静岡県支部総会(静岡市)を難波副知事、中沢県議会議長、国土交通省砂防部石塚砂防施設評価分析官、(一社)全国治水砂防協会岡本理事長(現副会長)の御出席のもと開催しました。



全国治水砂防促進大会が開催される

11月19日(火)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館(東京都)で開催され、13名の会員が参加されました。大会後には、県選出国會議員と国土交通省への要望活動を実施しました。



狩野川直轄砂防事業着手60年の記念事業が伊豆市で開催

11月16日(土)に、狩野川直轄砂防の事業着手60年を記念する「伊豆地域とともに歩み暮らしを守る狩野川砂防」が伊豆市で開催され、関係者約120名が出席されました。

番外

全国の令和元年土砂災害発生件数は、過去10年で2番目に多い1,995件

台風19号による全国の土砂災害は、台風による発生件数では最多の952件

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表していません。

全国治水砂防促進大会及び支部要望活動

11月19日(火)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催されました。

全国から、会員(市町村長)や国・都道府県の砂防事業関係者1,300名が参加されるなか、当支部からは13名の会員が出席されました。大会に先立ち、広島県の湯崎英彦知事による「創造的復興による新たな広島県づくり」と題した特別講演が行われました。

大会は、綿貫民輔会長の挨拶、赤羽一嘉国土交通大臣の祝辞に続き、今井一之砂防部長から「土砂災害の恐ろしさ 土砂災害対策の大切さ」と題した講演をいただきました。その後、会員代表として、宮坂尚市朗北海道厚真町長と足立正則長野県飯山市長から意見発表が行われました。次に、副会長である椎葉晃充宮崎県椎葉村長から大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。

大会終了後、地元選出国會議員及び国土交通省へ、令和2年度予算確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中、御出席いただきました会員の皆様には心より御礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶



赤羽国土交通大臣の祝辞



今井砂防部長の講演



井林衆議院議員への要望活動

静岡県支部の要望



○県民の生命・財産と県土を守る砂防関係事業への特段の配慮

1. 直轄砂防事業の推進

- ・富士山砂防事業：富士山麓の火山砂防事業と火山噴火に対する防災対策
- ・安倍川砂防事業：大谷山腹工、有東木地区砂防堰堤工群 等
- ・狩野川砂防事業：市山地区砂防堰堤群、加殿地区砂防堰堤群 等

2. 直轄地すべり対策事業の推進

- ・由比地区直轄地すべり対策事業：深礎杭、排水トンネル

3. 県による土砂災害防止施設の整備とソフト対策の推進への支援・協力

- ・避難所や要配慮者利用施設、重要なインフラ・ライフライン等を保全する土砂災害対策の推進
- ・土砂災害が発生した地域における、再度災害防止対策の推進
- ・砂防関係施設の長寿命化対策の推進
- ・市町が国・県と連携した、安全で迅速な避難のための取組の推進

○「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の継続的な予算の確保

参加市町

袋井市、伊豆市、牧之原市、東伊豆町、森町、静岡市、浜松市、三島市、富士宮市、伊東市、河津町、西伊豆町、清水町 (13市町/35市町) ※太字は市町長が参加：5名

北海道の砂防関係事業等を視察

8月28日(水)から30日(金)に、会員(市町長)による砂防関係事業等県外視察として北海道(厚真町、苫小牧市、利尻富士町ほか)を訪れました。原田支部長(袋井市長)を団長に、市町長が計17名、県の宮尾交通基盤部長や土木事務所長、事務局を含め24名が参加しました。

厚真町では、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震による大規模な斜面崩壊の現場を視察後、厚真町役場にて宮坂厚真町長から地震による被害状況や発生後の対応や課題について説明をいただき、意見交換を行いました。小中学校の早期再開や議会への定期的な情報提供、職員が復旧業務に専念できる体制づくりなど、円滑な復旧に向けた取組が行われていました。

苫小牧市では、国土交通省苫小牧河川事務所による樽前山直轄火山砂防事業が進められており、「熊の沢川2号砂防堰堤」の建設現場を視察しました。現地は火山噴出物が堆積した脆弱な地質のため、経済的で火山噴火に伴う泥流の衝撃にも強い、鋼製セル型砂防堰堤の建設が進められています。

利尻島では、利尻山の火山噴火堆積物による土石流対策が進められており、「沼の沢川遊砂地」や「大空川砂防堰堤」を視察しました。利尻島は利尻山の山裾が海に迫り、平地も少なく集落が点在するなど、地形的に伊豆半島に類似していました。

参加された皆様から「厚真町長の取組、苦勞が直接聞けて大変参考になった」「緊急の土砂災害対策や国の大規模な現場が見られてよかった」との御意見をいただきました。



宮坂厚真町長と意見交換



樽前山の直轄火山砂防事業「熊の沢川2号砂防堰堤」



「沼の沢川遊砂地」(利尻富士町)

日程

- 8月28日(水)
 - 北海道胆振東部地震による大規模な斜面崩壊の現場視察
 - 厚真町役場において、地震時の対応等について宮坂厚真町長と意見交換
- 8月29日(木)
 - 樽前山直轄火山砂防事業の現場視察
 - 利尻富士町役場を表敬後、沼の沢川火山砂防事業の現場視察
- 8月30日(金)
 - 大空川火山砂防事業の現場視察
 - オタトマリ沼、利尻郷土資料館視察

参加市町等

袋井市、富士宮市、伊豆市、南伊豆町、浜松市、東伊豆町、森町、沼津市、裾野市、御前崎市、菊川市、牧之原市、河津町、松崎町、西伊豆町、函南町、吉田町(17市町/35市町) ※全て市町長が参加
交通基盤部長、富士・島田土木事務所長、砂防課(事務局)

令和元年度 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議を開催

10月16日(水)に、東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議をオークラアクトシティ浜松(浜松市)で開催しました。

来賓の(一社)全国治水砂防協会の大野理事長から「土砂災害対策とその課題(災害史と制度の変遷)」と題した話題提供をいただくとともに、実効性のある避難の確保や砂防専門家と市町の防災担当職員の育成等について、各支部長との熱心な意見交換が行われ、大変有意義な会議となりました。



浜松市沿岸域防潮堤視察

日程

現場視察 12:40~15:00

- 1 「上田町地区(湖西市)」特定利用斜面保全事業
急傾斜事業にあわせた津波避難地の造成
- 2 「浜松市沿岸域防潮堤(浜松市)」
静岡モデルの防潮堤整備

会議 15:10~17:00



会議の様子

市町等砂防担当職員現場研修を開催

11月22日(金)に、市町等砂防担当職員現場研修を国土交通省沼津河川国道事務所と下田土木事務所の管内で実施し、県内市町と県土木事務所の担当職員28名が参加し、土砂災害対策について学びました。

下田土木事務所の「仏沢川(西伊豆町田子)」と「南郷北沢(松崎町南郷)」では、土石流災害が発生した箇所における緊急の対策とともに、砂防ソイルセメント工法や化粧型枠等の各現場での工夫、苦労した点などを現場で研修しました。

また、沼津河川国道事務所伊豆長岡出張所の「狩野川資料館」では、狩野川台風の被災状況や本年10月の台風19号での狩野川放水路の効果等を研修しました。

参加者からは、「限られた期間での施工の中で、砂防ソイルセメント工法の有効性を感じた」、「民地が近接している中で、状況に応じて土留構造を変更する等の工夫が勉強になった」、「先日の台風19号は、狩野川台風を上回る降水量を記録したが、狩野川放水路により、大規模な被害を防ぎ、狩野川放水路の必要性を改めて感じた。」などの感想が寄せられました。



現場研修の様子(南郷北沢)



狩野川放水路の説明(伊豆の国市)

参加市町等

《市町11市》 静岡市、浜松市、熱海市、島田市、富士市、掛川市、藤枝市、御殿場市、下田市、裾野市、湖西市

《静岡県6土木事務所》 下田土木事務所、熱海土木事務所、沼津土木事務所、富士土木事務所、島田土木事務所、袋井土木事務所

静岡県内土砂災害の発生状況

土砂災害は、降雨や地震などにより突然発生し、尊い生命や貴重な財産を一瞬にして奪い、地域に深刻な被害をもたらします。

土砂災害は全国各地で毎年発生し、過去10年間で平均1,400件、県内においても年平均約50件も発生しています。

令和元年は、台風19号を中心に県内各地で87件(土石流：6件、地すべり：2件、がけ崩れ：79件)の土砂災害が発生し、人家全壊3戸と一部損壊3戸の住宅被害がありました。早めの避難により幸いにも人的被害はありませんでした。

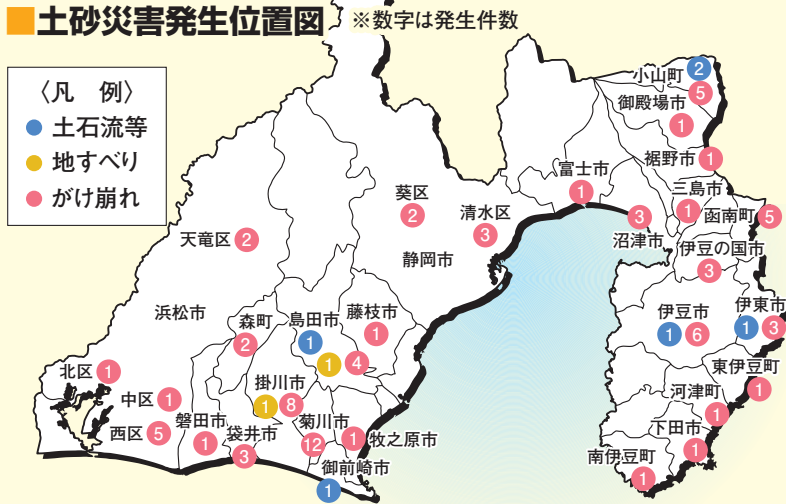
また、10件では既設の擁壁等が土砂や倒木を食い止め、人家等への被害を軽減したことが確認され、土砂災害防止施設が地域の安全度を着実に向上させるストック効果を発揮しています。

令和元年 土砂災害の発生状況(国交省所管)

種別	年次	令和元年											計
		発生日	5月21日	6月15日	6月24日	7月4日	7月15日	7月22日	7月27日	8月28日	9月8日	10月12日	
	原因	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	台風15号	台風19号	降雨	
土石流等	発生件数				1		1	1			3		6
地すべり	発生件数						1				1		2
がけ崩れ	発生件数	3	2	5	9	1	12		1	5	40	1	79
	計	3	2	5	10	1	13	2	1	5	44	1	87
	内施設効果あり	0	0	0	0	0	2	0	0	0	8	0	10



土石流(駿東郡小山町竹之下)



地すべり(島田市伊太)



がけ崩れ(掛川市伊達方) 崩壊土砂をくい止め、幼稚園の被害を防いだ

台風19号による土砂災害とソフト対策の効果

令和元年10月12日、静岡県に上陸した台風19号は、関東甲信地方から東日本に大きな被害を及ぼし、初の大雨特別警報が発表された本県においても、各地で大きな被害が発生しました。

県内における土砂災害警戒情報は31市町におよび、30市町が土砂災害のほか浸水害等により避難勧告を発令しました。

県内においては、44件(土石流3件、地すべり1件、がけ崩れ40件)の土砂災害が発生し、人家全壊3戸、一部損壊3戸の住宅被害がありました。事前の避難により、幸いにも人的被害はありませんでした。



全景写真

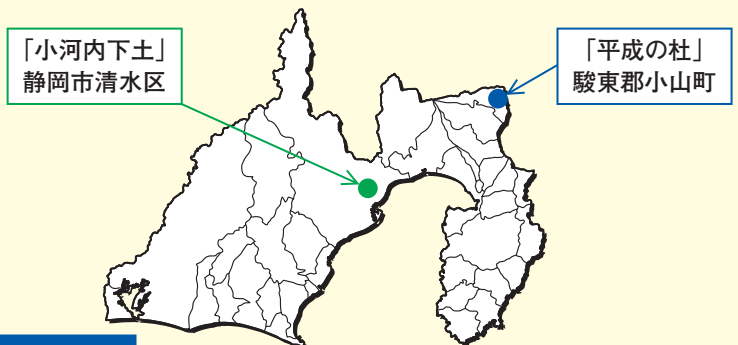


建物被災状況

「小河内下土」: 早期避難により難を逃れた事例

「小河内下戸(静岡市清水区)」では、がけ崩れにより人家1戸が全壊する土砂災害が発生しましたが、住民が事前に避難していたため、人的被害はありませんでした。

- | | | |
|-----|--------|-------------------------------------|
| 11日 | 14:00 | 市内のホテルへ自主避難 |
| 12日 | 00:18 | 大雨警報発表 |
| | 13:25 | 土砂災害警戒情報発表 |
| | 13:45 | 避難勧告発令 |
| 13日 | 06:50頃 | がけ崩れによる人家1戸全壊を発見
事前の避難により、人的被害なし |



「平成の杜」: 避難訓練や地域の声かけにより難を逃れた事例

特別養護老人ホーム「平成の杜(駿東郡小山町)」では、土石流により施設内に土砂が流入する災害が発生しましたが、利用者等が事前に避難していたため、人的被害はありませんでした。

この施設は、避難確保計画を作成するとともに、6月2日の「土砂災害・全国防災訓練」を実施していました。台風の当日、異変を感じた地域の防災リーダーの声かけにより、職員が利用者をより安全な2階に避難させ、難を逃れることができました。

- | | | |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 12日 | 00:18 | 大雨警報発表 |
| | 10:37 | 土砂災害警戒情報発表 |
| | | 土砂災害特別警戒区域(急傾斜)に近い施設1階東側の利用者が2階へ避難 |
| | 11:00 | 避難勧告発令 |
| | 13:15 | 避難指示発令 |
| | 19:30 | 近隣住民からの声かけ |
| | 19:34 | 残る利用者及び職員が、より安全な施設の2階へ避難 |
| | 20:00 | 避難完了 |
| | 20:05 | 土石流が発生、施設に土砂が流入したが、避難が完了しており、人的被害なし |



避難訓練実施状況



被災状況

「土砂災害防止講習会」と「土砂災害出前講座」の開催

土砂災害による人的被害を未然に防止するためには、地域住民が土砂災害の恐ろしさを理解し、日頃から身の回りの危険箇所や避難経路等を確認して、「日頃の備えと早めの避難」を心がけていただくことが重要です。

本県では、防災知識の普及活動として土砂災害警戒区域周辺の地域住民や自主防災組織の方々を対象にした「土砂災害防止講習会」や防災教育の一環として小中学生等を対象にした「土砂災害出前講座」を実施しています。

「土砂災害出前講座」では、砂防工事の現場見学会や小中学校に出向き土砂災害のおそろしさや土木事業の大切さの説明等を行っています。参加した児童から「今回教えてくれたハザードマップなどで、家の周りをしっかり確かめて、いざというときのために備えておきたいと思います。」「僕たちが知らないところで土砂災害を防ぐ工事をしてくれてありがたいと思いました。」等の声が寄せられました。

今後も積極的に土砂災害防止に関する知識の普及を図ってまいります。

開催の御希望がありましたら、砂防課もしくは、お近くの県土木事務所までお問い合わせください。



防災指導員向けの講習会の様子(藤枝市役所)



出前講座の様子(下田市立朝日小学校)

■平成29年度～令和元年度 講習会・出前講座の実施回数

	H29年度	H30年度	R1年度(12月末)
講習会実施回数(受講者数)	32回(3,318名)	42回(3,244名)	37回(2,540名)
出前講座実施回数(受講者数)	11回(424名)	12回(751名)	10回(913名)

治山・砂防事業推進議員連盟が 北海道の砂防関係事業を視察

10月7日(月)、8日(火)に、水と豊かな生活環境の創造と安心して暮せる社会基盤の整備を目標に、砂防関係事業の推進を目指す「静岡県議会治山・砂防事業推進議員連盟」の現地視察が北海道で行われました。

今回は、会員(県議会議員)67名のうち31名が参加され、平成30年9月の北海道胆振東部地震で大規模な土砂災害が発生した厚真町の災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業や樽前山直轄火山砂防事業(苫小牧市)等を視察しました。

近年は、大規模地震や集中豪雨による甚大な土砂災害が全国各地で発生し、県内にも多くの土砂災害危険箇所があることから、議員の皆様は現場の状況を熱心に視察され、発災直後の緊急対策や砂防事業の効果等に関する質問が多く出されるなど、土砂災害対策の重要性について再認識していただきました。



「樽前山直轄火山砂防事業」工事現場にて



厚真町総合福祉センターでの集合写真

氏名

飯田 末夫
伊丹 雅治
大石 健司
大石 哲司
勝俣 昇
加藤 元章
木内 満
小長井 由雄
桜井 勝郎
沢田 智文
杉本 好重
杉山 盛雄
鈴木 啓嗣
高田 好浩
土屋 源由
坪内 秀樹
東堂 陽一
中澤 通訓
野田 治久
早川 育子
林 芳久仁
卓 直
廣田 直美
深澤 陽一
牧野 正史
増田 享大
諸田 洋之
山崎 真之輔
山田 誠
良知 淳行
和田 篤夫
(以上31名)

※50音順

第1回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議を開催

8月2日(金)に、「第1回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議」を県熱海総合庁舎(熱海市)で開催しました。

この会議は、昨年度策定した伊豆東部火山群緊急減災対策砂防計画に基づく各種取組を推進するため、国、県、市の関係機関が集まり、調整や情報共有を図るものです。第1回の会議では、砂防計画に関する現状と課題を情報共有しました。今後も定期的に会議を開催し、取組を推進していきます。



第1回連絡会議の様子

由比地すべり親子見学会が開催される

8月24日(土)に、国土交通省富士砂防事務所により大規模な地すべり対策事業が進められている「由比地区(静岡市清水区)」で現場見学会が開催され、親子18名が地すべり対策工事を学びました。

当見学会では、深礎杭の工事現場で最新の土木技術を見学した後、延長712mの「大久保排水トンネル」の奥でクイズ大会を行いました。その後、県の「由比地すべり管理センター」で当地区の災害の歴史とこれまでの対策を学びました。

子供達からは、「普段は見られない工事現場が見学できて楽しかった」「排水トンネルの中は水が流れていて、涼しくて気持ちよかった」等の感想をいただくなど、地すべり対策の現場の魅力を感じていただきました。



排水トンネル内でのクイズ大会の様子

狩野川直轄砂防60年記念事業が開催される

11月16日(土)に、「伊豆地域とともに歩み暮らしを守る狩野川砂防」と題する狩野川直轄砂防60年記念事業が、天城会館大ホール(伊豆市)で開催され、事業関係者や地元住民ら約120名が出席しました。

国土交通省今井一之砂防部長の挨拶の後、沼津河川国道事務所の長谷部智久所長による直轄砂防事業の説明に続き、「土砂災害対策と課題」をテーマに、(一社)全国治水砂防協会の岡本正男副会長の講演が行われました。

最後に、本年度内に完成予定の「鹿群山砂防堰堤」に設置される銘板がお披露目され、出席者からは直轄砂防事業の重要性を訴える発言が相次ぎました。



「鹿群山砂防堰堤」の銘板がお披露目

ジオフォーラム2019 IN 静岡が開催される

11月1日(金)に、静岡県地質調査業協会主催(当支部後援)による「ジオフォーラム2019 in 静岡」が静銀ユーフォニア(静岡市)で開催されました。

今回は、「盛土を考える」をテーマに、コンサルタントや県の担当者による6つの技術発表が行われました。また、地盤アドバイザー協会特別顧問の諏訪靖二氏による「盛土による土構造物の課題」と題した特別講演があり、近年の盛土構造物の被災事例の紹介や今後の盛土構造物に求められる技術的課題について解説がありました。



県担当者による技術発表

東海地区砂防担当者会議を開催

11月14日(木)、15日(金)に、東海地区砂防担当者会議を熱海市ほかで開催しました。

14日の会議では、東海地区における砂防事業に関する課題や各県の対応状況等について、意見交換を行いました。15日には、熱海土木事務所管内の「萩沢(伊東市)」火山砂防事業と「石脇沢(伊東市)」災害関連緊急砂防事業のほか、伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画に関連して大室山などのジオサイトを視察しました。



大室山から伊豆東部火山群が影響する伊東市街地を臨む

砂防研修(溪流点検演習)が開催される

11月18日(月)、19日(火)に、砂防研修(溪流点検演習)が、国土交通省中部地方整備局河川部と砂防学会東海支部の連携により、静岡市内で開催されました。参加機関は、中部地方整備局河川部、直轄砂防事務所、静岡県、静岡市、静岡大学、県立科学技術高等学校生徒及び砂防学会員など計63名が参加しました。

18日には、「災害時の緊急対応について考える」をテーマにワークショップを開催し、甚大な土砂災害を想定し、被災情報の関係機関への報告・情報共有やハード・ソフトの緊急の対策について議論を行いました。

19日には、「ピワミズ沢(静岡市葵区平野)」で、実際に測量機器及びドローンを持参し、タブレット端末を使用した点検入力、ドローンによる計測などを実施しました。

土砂災害が発生した際の初動における警戒避難体制の構築から本復旧を実施するまでの簡易測量等の一連の流れを確認するなど、本番さながらの大変有意義な演習でした。



ワークショップ(静岡河川事務所にて)



溪流点検演習(静岡市ピワミズ沢にて)

参加者

《参加機関》

中部地方整備局河川部、多治見砂防国道事務所、越美山系砂防事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、天竜川上流河川事務所、静岡河川事務所、庄内川河川事務所、静岡大学、県立科学技術高等学校、静岡県、静岡市、砂防学会

土砂災害警戒情報を補足する情報に関する検討会の開催

12月10日(火)に、国や県、静岡地方気象台のほか、県内各地域の8市町で構成する「土砂災害警戒情報を補足する情報に関する検討会」を県庁で開催しました。

本検討会では、県のホームページで提供している「土砂災害警戒情報補足情報システム」について、市町の担当者や地域住民がより使いやすく理解しやすくなるよう、システムの改善や情報の提供方法等について検討を進めています。

今後は、来年度の雨期前を目途に、システムの改善を目指してまいります。

令和元年度静岡県砂防・治山連絡会議を開催

12月20日(金)に、砂防事業と治山事業が連携して効率的に事業を実施するため、砂防・治山連絡会議を静岡県産業経済会館で開催しました。

会議には、国土交通省中部地方整備局、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、農林水産省林野庁関東森林管理局、静岡森林管理署、伊豆森林管理署、天竜森林管理署、大井川治山センター、県砂防課、県森林保全課の担当者が出席し、来年度以降に事業実施を予定している箇所の事業調整を行いました。



各機関との事業調整の様子

お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募へのお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。なお、入選発表及び表彰式は令和2年3月を予定しています。



【応募状況】

部 門	小学生	中学生	計
絵 画	2	64	66
作 文	1	10	11
合 計	3	74	77

砂防および地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

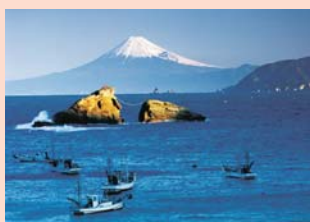
日 時：令和2年2月13日(木)・14日(金)
 会 場：砂防会館別館 シェーンバッハ・サポー 利根
 参 加 費：4,000円 (テキスト代2,000円、受講費2,000円)
 主 催：一般社団法人 全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3042



祝：『砂防だより』200号を発刊

静岡県土木部に砂防課が再設置された昭和41年から、協会活動の一環として『砂防だより』を発刊し、本号で200号を数えることとなりました。

引き続き、会員相互の連携と交流、砂防関係事業の啓発と普及、情報交換を図るよう、静岡から全国に砂防関係の情報を発信してまいります。



【表紙写真】

雲見海岸からの富士山(撮影地：松崎町)

写真提供：静岡県観光協会

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編 集・後・記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、本県に上陸した台風19号により各地で大きな災害が発生し、自然災害の恐ろしさと砂防事業の重要性を痛感しました。改めて被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

本年も、土砂災害防止に向け皆様のお役に立つ、より良い誌面づくりに努めていきたいと思っております。

年頭にあたり、会員の皆様方の御多幸を祈念しますとともに、本年も砂防だよりを御愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第200号 発行日：令和2年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
 TEL (054)221-3042 FAX (054)221-3564 E-mail : sabo@pref.shizuoka.lg.jp